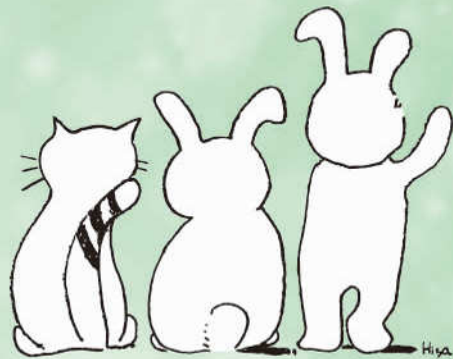




はすてる



男女共生を考える
～職場のコミュニケーション～

蓮田市男女共生情報誌

編集委員／菅野由紀子 酒井めぐみ 小森豊政 高沢秀樹 石黒さゆり
表紙挿絵／久田晴實
発行／蓮田市役所総務部庶務課 〒349-0193 蓮田市大字黒浜 2799-1
☎ 048-768-3111 内線 296

第18号
2017.1

～職場のコミュニケーション～

前回、「子ども達に対して男女共生の気持ちを育てるには大人たちはどのように対応すれば良いのか。」を考えるために、市内の幼稚園、小学校、中学校そして高校の先生方にお集まりいただきいろいろな話を聞かせていただきました。私たちの知らないことも数多くあり、とても参考になりました。今回私たち編集員は、大人たちのコミュニティについて興味を持ちました。

そこで、市内の企業、消防、学校そして行政の職場で働いている方々にお集まりいただき、男女共生がどのように取り入れられどのように取り組まれているのか、また、若い世代と管理職世代で考え方にどのような違いがあるのかを「部下編」と「上司編」に分かれて座談会を開き『男女共生を考える～職場のコミュニケーション～』をテーマに取り組んでみました。

部下・若者編

職場での上司とのコミュニケーションはどうですか？



小森委員

私たちの職場では風通しを良くしようという動きがあります。

上司に対しても「〇〇さん」と呼んでいます。特に新人のときは相手の役職がわからなくても、名札を見て名前を呼べるのはありがたいと思いました。

校長先生が気さくに声をかけてくれます。空いてる時間に相談にのってくれます。「チーム蓮田」を意識することで、職員同士の声かけが多くなり、まとまってきました。

体力に差が出る場面では男性職員に助けてもらってるので感謝しています。飲み会

の参加率もいいです。プライベートの話もたくさんします。

女性の校長先生ということもあり、職場が気さくな雰囲気です。授業を見にきて、生徒が分からない所をそっとヒントを言ってくれる時もあります。職員室内ではニックネームで呼んだりします。



委沼さん



松本さん



東金さん



山崎さん

うちは共働きで、主人も同じ職業です。職場の男性職員を見て、主人もこういう風に仕事に取り組んでいるんだなと思うときがあります。

急に子供の発熱で迎えに行かなければならない時、先輩方が「大丈夫よ、早く帰ってあげて」と優しくしてくださいませ。上司としても生き方としても、お手本にしたいと思っています。

任務が完了し、病院や現場から帰る救急車内で、上司がいろいろと話しかけてくれ、空気が和みます。

緊急出動が多いので、スムーズに対応するためにも、普段のコミュニケーションが大事だと思っています。

子供や保護者の対応について戸惑う時に、先輩のアドバイスはためになります。園長先生がクラスの様子を見に来てくれ、自分が気づかなかった子供の変化を教えてくれるとき、心強いと感じます。

教師は年齢での先輩後輩はあっても、「上司」という上下関係はあまり感じないですね。やっぱり教壇に立っていたいです。基本的に利害関係が無い職場なんだと思います。



学年ごとの若い先生、ベテランの先生が一つにまとまって、受け持つ学年の生徒に向かっています。もし、生徒が見たらケンカと思うほど熱心に意見を交わす時もありますよ。

昔の年配の先生は怖くて近寄り難いような方もいました。でも今では、その年代の方も若手みたいに働いていますし、全然違っています。

うちの職場は女性の割合が多いせいか、あたたかい雰囲気です。飲み会にも積極的に参加します。上司の方はよく声をかけてくださいます。

役職や先輩後輩の上下関係はありますが気さくな上司が、夕方、皆にスイーツを配ってくれます。



吉田さん



天津さん



熊倉さん

上司の対応で困ったことがありますか？



酒井委員

上司の指示の内容がよくわからない時に聞き返すことができません。「自分で考えなさい」ということなんだと思うのですが……。

女性の上司の場合、夜の飲み会は誘いづらいことがあります。



前田さん



広瀬さん

女性の上司がいると職場が明るくなる反面、まるで息子のよういろいろな気にかけてくれ、声をかけてくれてありがたいですが、「もう少し自分でやりたいな」と思う時があります。



一ノ瀬さん



浪辺さん

就業時間外にスイーツを配ってくれるのですが「そんなに気を遣わなくていいのになあ」と思う時もあります。



まとめ

皆さん、普段の職場のコミュニケーションを大事だと思っているようです。上司の方が気さくに声をかけてくれること。相談にのってくれ、豊富な経験からの確かなアドバイスを受けた時は、とても心強く、ありがたいと感じる、とのことでした。悩みが軽くなったり、また次はこうしてみよう、という前向きに考えることができるそうです。

上司や先輩方から良くしていただいた事、学んだ事は、自分が後輩に伝えていきたい。というお話に皆さんとても共感していました。

上司の方と個人的に飲みに行く機会は少ないようですが、ランチ会や親睦会などを定期的に関いてコミュニケーションをとるようです。

「今後への希望」と「自分の理想」

管理職になってもならなくても、今の上司のように困ったことがあれば、相談にのってあげられるような、風通しの良い環境が作れるように経験を積んでおきたい。

役職や部署に関係なく、いつでも謙虚に学んでいきたい。

上下関係のない世界で、人間性の魅力を先輩の後ろ姿を見て学んできました。自分もできれば、管理職にはつかず、いつまでも現場で仕事をしながら、後輩を引っ張ってだけでなく、頼られる存在になりたい。

気が付くと自分と同じ世代が昇給試験を受け始めている。いつまでも下っ端のままではいけないと思う自分があります。ただ上司が若い世代に、気を遣ってアドバイスや声掛けをしている様子を見ると「大変そうだ」と思う。

上司になると、若い世代に割り振る仕事も、安全な方をまかせてしまいがちですが、若い世代にも経験が必要かと思うので、チャレンジさせていけるような上司になりたい。

上司は、いろいろ気にして声をかけてくれるが、自分で決めたいこともあるため、将来自分が上司になったら、まかせていけるようになりたい。



竹竹原さん



内門さん



大場さん

部下への指示をわかりやすく明確にし、わからないことがあったら、聞き返せるような雰囲気をつくってあげたい。わからないことがどこなのか、共有できるようにしてあげたい。

怒られると露骨にしかめっ面になったり、納得していないような返事が返ってきてしまうため、今は大声で怒ってくれる人がいなくなってきている。しかし、間違っていることをしっかりと理解させつつ、注意できるようになりたい。

男女の特徴も生かしたいが、男性は〇〇、女性は〇〇というような枠を取り払って、いろいろな部署を経験していきたい。

いろいろな会議に参加した経験から、堅苦しいものではなく、時には冗談も交えながら和やかな雰囲気の中で会議をしたい。そんな姿をみてもらい部下を育てていきたい。

職場それぞれの人の立場や、抱える環境に配慮してコミュニケーションがとれるようになりたい。



野本さん

産休・育休・復帰後の現状について

男女問わず取得可能！

- 男性の育児休暇が認められていて、今年初めて1年間の申請がありました。
- 現在、女性2名が育児休暇中です。休みの穴埋めは必要なくこなせています。

復帰後は時短勤務がある！

- 子供が小3までは、1日あたり6時間の時短勤務制度があります。
- 現在、育休3年目の先生が2人います。復帰後は時短勤務制度があり、15時で退勤することもできます。

育休は最長3年間！

- 最長3年間で半年の延長も可能です。そのため、出産を理由に退職する人は少ないです。
- 昔は1年間で無給でしたが、今は男女問わず最長3年間可能で、有給です。ただ、夫婦同時の取得は出来ません。
- 育休は、最長3年間です。現在6人が取得中です。1年、または1年半ぐらいで復帰する人が多く、言い出しにくいということはありません。



久田さん



星さん

まとめ

育児休暇は、どこの職場でも3年間は取得出来るということが分かりました。また、出産後の時短勤務については、子供を持つ女性にとって大変ありがたい制度だと思います。以前に比べ、働きやすい環境が整ってきていると感じました。



石黒委員

休暇を取得しやすい環境にするために実施していることはありますか？

今年には男性に、育休についての小冊子を配布しました。

休暇制度が昔とは変わっているので、規則を確認しながら、休暇が取れることを教えてあげています。

休暇のことだけでなく、復帰したばかりの先生には、なるべく担任を任せないようにしています。



佐藤さん

まとめ

部下にとって、休暇申請はなかなか言い出しにくいものだと思っていましたが、このように、上司の方から勧めていただけると、取得しやすいですし、とても安心できると思います。職場のいい雰囲気を感じることができました。



賀山さん



普段から部下に対して心がけていることはありますか？



高沢委員

「職場」以外にも、ランチなどコミュニケーションの場を作るよう心がけ、自分の失敗談や経験談も交えながら、対応が難しいケースについてのアドバイスをするようにしています。



田中さん

上下関係がはっきりしている職場なので、仕事中は強い口調での指示になりますが、終わった後はフォローするように心がけています。

夜勤がある職場では、女性の妊娠判明後は体に負担がかからないよう、まわりのサポート体制を整え、なるべく日勤をすすめるようにしています。

こちらから部下に声かけするよう意識しています。ときには、スイーツやお菓子を持っていきながら、コミュニケーションをはかるように心がけています。お酒を飲み誘う時は、部下の予定を聞くなど、気を遣うようにしています。

積極的に声をかけるようにしています。まずは自分で考えてもらい、行き詰まった時はアドバイスするようにしています。

部下が自分の子供たちと同じ世代なので、子供の意見を参考にさせてもらうこともあります。



前田さん

まとめ

上司の方は、勤務時間内も、またそれ以外でも、部下に対してとても気を遣っているようです。どんな職場でもお互いの信頼関係が大切で、その信頼関係を築くためには、上司と部下が普段からコミュニケーションをとることが必要だと思いました。



菅野委員

女性の昇進についてはどうですか？

職場は女性が7割を占めますが、昇進する割合はまだ少ないです。昇進するためには、祖父母のサポートや、家族、職場の理解などの、環境が整っていることが大きいと思います。

昇進には試験が必要で、勤続年数も関係します。もともと男性が多い職場で、昇進を望まない女性も、もちろんいます。



早川さん

まとめ

女性の管理職は、以前に比べ増えてきています。しかし、母親としてどうしても女性にしか出来ない事もあるため、昇進を断念するケースもあります。女性が昇進するためには、職場だけでなく、家族の理解と協力が必要だと、改めて感じました。



飯野さん

エピソード

「部下編」15名、「上司編」8名の方々の協力をいただき、とても有意義な時間を持つことが出来ました。私たち編集員は、世代間の違いや男女の違いから様々な思いや不満が噴出するのではないかと考えていました。しかし、今回の座談会から見えてきたことは、「若い世代も管理職世代も、世代や男女を超えて、お互いの立場や考えに気をくばり、明るく楽しい職場の環境づくりに皆で取り組んでいる姿」でした。

男女共生の取り組みが始まってから20年、少なくとも蓮田をとりまく大人たちのコミュニティは、より良い方向に進んでいるのではないかと、という印象を持つことが出来ました。

ご協力いただいた皆様、貴重なお話を積極的にご発言いただき、ありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。



編集後記

昨年に引き続き、今年もぱすてる編集委員を務めさせていただいています。男女共生社会の確立を目指す活動は、日々の生活の中で身近に感じられる事はなかなか無いことだと思います。私自身も、狭い世界で日々を送っているの、世の中の動きや違う環境で過ごされている方々の様子を知ることができる機会をいただけて大変ありがたいなと思っています。これからも、皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。

(高沢)



ぱすてる編集委員

前回に引き続きの座談会。今回は様々な職種の方々のお話を伺うことができました。始めは緊張していた方もいらしたようですが、だんだん和やかな雰囲気です話が進んでいきました。相手の話に共感したり、驚いたり。時には笑いがあって、あっという間の2時間でした。

取材を通し、改めて、目配り、気配りの大切さに気づきました。部下が困った時、相談しやすいようにと普段から声かけを心がける上司の方、相談したいけどタイミングがわからず何となく躊躇してしまう部下の方。たまにはジェネレーションギャップを感じる事もあるけれど、職場を良くしたい、共に仕事を頑張りたいという想いが伝わってきました。

(酒井)

「上司は怖い」というイメージの時代を経験してきた、現在上司のみなさん。自分たちの経験を生かし、男女平等と言われる時代に育った、現代の部下たちに合わせて配慮し、気持ちよく仕事ができるように、指導の仕方を工夫しているようでした。また、部下の人たちも、その気遣いを感じて、将来はその考えを引き継ぎたいと思っていることに感動しました。お互いの立場を尊重し、気遣える。そんな人間関係がもっと浸透していくことで、男女共生の実現につながっていくのだと感じました。

(菅野)

今回、職場のコミュニティをテーマとして取り組みました。私も小さな会社を経営している者として、とても興味があり、関心をもって取り組みました。

編集をしながら「いろいろと知らないことがあるものだなあ。」と感じました。普段関わりがないと思った男女共生は、一人一人身近にあるとも思いました。

これからも皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

(小森)

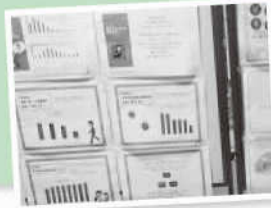
今年度より、ぱすてる編集委員の一員として活動させていただくことになりました。

初めて参加した、今回の話し合いのテーマは『職場のコミュニケーション』。男女という性別だけでなく、世代の違う上司と部下が、お互いを思いやり、より良い関係を築いていくためにどんなことをしているのか、また、思っているのかを聞くことが出来ました。自分の職場以外の様子を知る機会はなかなかないので、今回の座談会に参加できて本当に良かったです。

(石黒)

活動報告

子育てミニフェスタ
(9月開催)に参加



ご意見を
お寄せ
ください

「ぱすてる」では、今後載せてもらいたい内容、今回の内容に対するご意見・ご感想、男女共同参画全般に関するご意見などをお待ちしています。また、編集委員も募集しています。興味関心をお持ちの方、ぜひ参加してください。

